

右之趣千俵以下勤仕之面々江可被達候、

〔淺草米廩舊例〕壹ヶ年諸渡方凡積略○中

三季五段渡切御届之儀是迄當日期御届候處寛政四亥年五月十二日翌日御届可申旨横屋幸之進勝屋彦兵衛より申來ル御借米御切米渡方ハ御張紙出候日ハ八日玉入御金渡九日目渡初ル〔札差業要集中〕三季御切米御扶持方渡り御藏方御定法荒増左に略○中

一御借米御切米は三季御張紙出ル當日より八日目勤仕以下御定日玉入當日玉落分直に御金渡り翌九日目より御米渡り年々御定式也勤仕以下玉振切次第翌日勤仕以上玉入右順を以不勤以下不勤以上御役料迄五段順々玉入也右玉入後御書替相濟分は其翌日々に追玉入尤玉振切後御書替相濟後レ御切米之分は別段に玉場江其後レ日御張紙出ル事、

但雨天ニ而も玉場御金渡りは日々有之御米渡りは相延天氣能日玉落之順に追日御米相渡事、

一御張紙表御定式春は三月夏は六月冬は十一月右三季晦日に限り日相過翌月朔日ハ勤仕不勤御役料共御金渡り無之皆米渡り之事略○中
一御女中御切米は二季渡り玉なし皆米渡り、

〔淺草米廩舊例〕一御切米御扶持方共玉落候以後受取人病死之者札差より申出候共書替より斷無之候はゞ米金相渡候事、

〔書替所定書〕當時定法

一總御切米渡り方割

一春夏御借米分限高之四分一渡す殘冬御切米ニて渡但女中衆ハ三月九月二季ニ高半分ヅ、
渡す享保八卯春御借米より御張紙ニ而極る但高ハ古來より之渡り方ニて前々より極る、